



「受託作業でコロナを乗り越え賃金向上へ！」

皆さんいかがお過ごしでしょうか！今年も、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、不要不急の外出が出来ない状況が続く中、各事業所では販売会が開けず、少ない受託作業を行っている状態が続いているのではないかと思います。私がお世話になっています「COLORFUL」でも、3年前から喜多方市にある㈱おくや様から受託している「落花生の皮むき」や「選別」の作業を行っています。最近では、落花生の増産に伴い、冬場だけではなく夏場まで作業を受託させて頂いています。先日、委託業者から振興会経由で「マスクフィルターのカット袋詰め作業」を受託しました。5月連休明けからの作業となり、初めての作業で職員を含め利用者も慣れるまでは大変でした。フィルターは、ゴミや匂いが付きやすい素材なので清潔が重要視されます。施設では新たに部屋を設け、利用者も限定し作業や備品に注意を払いながら



の作業でしたが、皆さん頑張って取り組んで頂きました。今回、会津圏域では、フィルターの受託作業を4施設で実施致しました。また、今年は市販の不織マスクが品切れ状態となり、代替品として布マスクを製作する施設が増えております。会津木綿製品を作っている施設では「会津木綿のマスク」作成に着手、価格は高いですがブランド力とデザインが受け、予想以上に販売に繋がった様です。こういう時期だからこそ「何か出来るのではないかな」というポジティブな考えで、何事にも前向きに取り組む事が大事だと思います。こんな言葉があります「やるか、やらないかですよ、人生は。やればそれだけのものが返ってくるし、やらなければそのままですよ。」変化の速い昨今、準備万端にしてから始めるよりも、目的を決めたら行動して見る。行動しながら計画して、修正して行く位がちょうどいいのかもしれないね。

「新農福コーディネーターと会津圏域を訪問！」

今年度、新たに農福連携コーディネーターとして採用した佐藤麻理子さんに、各圏域の施設の状況を今後の仕事に活かしてもらうために、6月16日～18日の3日間、会津圏域の施設を私と同行訪問しました。農福連携に取り組んでいる施設は勿論、会津圏域の施設へ紹介を含め挨拶に伺いました。会津の施設では、主に特産品のコメを使った加工品やえごまを使った油やドレッシングなどを作っており、最近では、栽培・加工・販売と6次化商品も多くみられます。園外作業では、落花生の種まきや収穫作業、他には野菜の袋詰め作業などに取り組んでいます。今回佐藤さんには、各施設を訪問して、施設長のお話を伺い、会津ならではの現場の雰囲気を感じていただきたいと思います。今回の訪問を通して、色々と学んだ事を今後の仕事に活かし、より一層、農業と福祉をつなげていただきたいと思います。



(会津・県中圏域担当:増井 義博)

《事務局通信》

新型コロナウイルス関係で、軒並み販売会が中止や延期となり、今後の取り組みについて模索しております。アンテナショップが開催できるよう各方面と相談しながら進めてまいります。

販売会は昨年度実施した販売会のもとより、新たな販売会も計画したいものです。

